

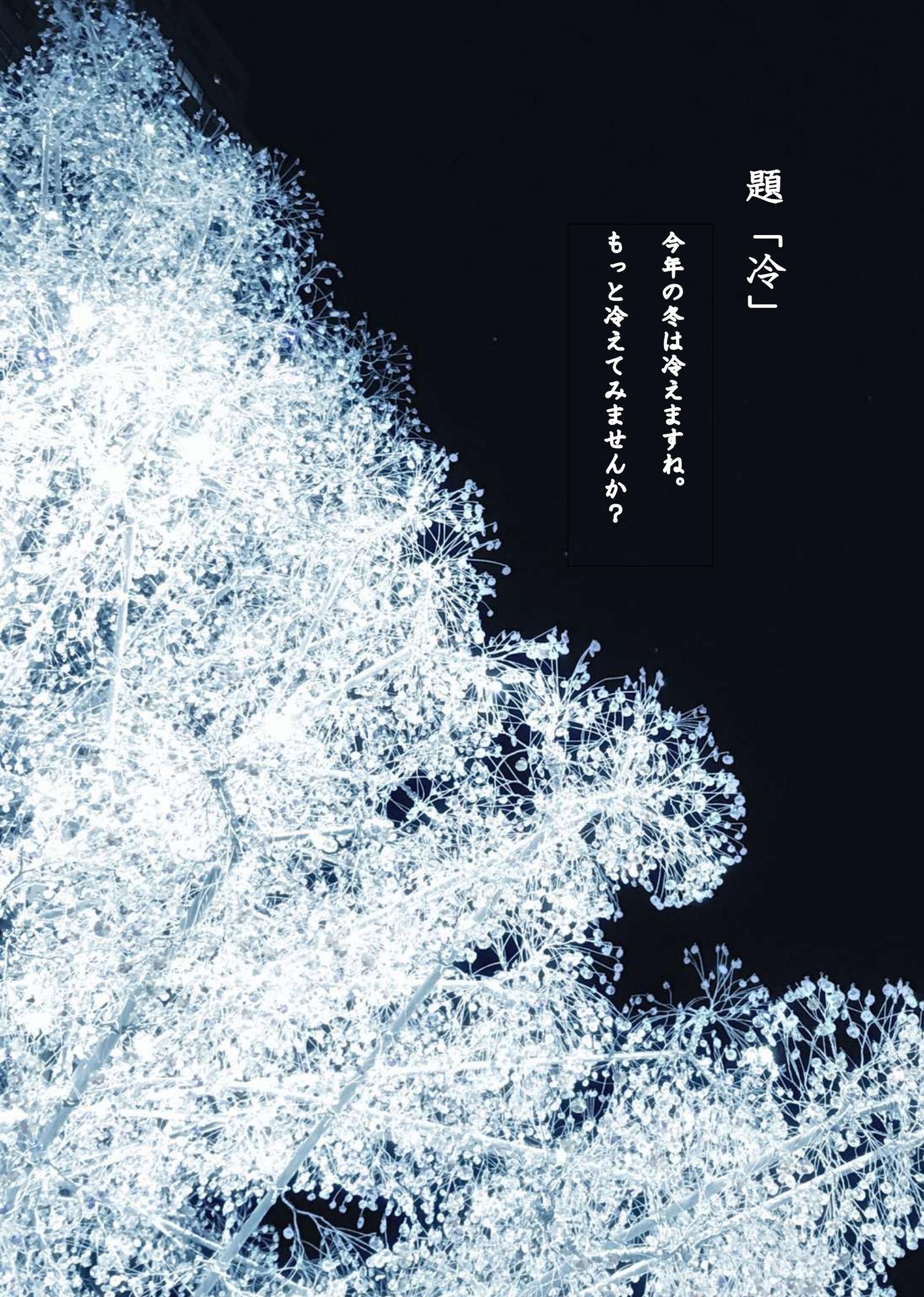


夜な夜な短歌集 第 10 卷 2017年 冬号

# 題「冷」

今年の冬は冷えますね。

もっと冷えてみませんか？



北の国から 2017

真冬日はダイヤモンドの朝が来る太陽の子が飛び跳ねながら

キリキリと冷えた空気に金色の粒子は踊る雪のない朝

凍れるね吹雪しばいてきたね すぐそばのいつでも君の手はあったかい

nonたん



私が経験した事を何とか歌にしてみたくて。  
ダイヤモンド・ダストは一度経験してみたい。素敵ですよ。

## ゆきおんなの恋

戯れる指先の熱知るまえも花は香っていたのでしょいか

まぶたへと落とすくちびる雪の夜に淡い眠りを閉じこめたくて

わたくしの身が溶けたあと残るのはこの胸に咲く椿だけです

h  
a  
n  
a  
k

ゆきおんなって、しめたいひとではないなあ、と思う。



# 報われないサンドリヨン

働いて浮腫んだ足にジャストフィット　ガラスの靴はひんやりとして

履きなれない靴を脱ぎ捨て走り出す終電があと五分で出ちゃう！

早朝に来客があり渡された冷たく光る靴はぶかぶか

s a i k i ( 柚木ことは )

夕方になるとブーツを脱いだり履いたりのするのが大変です。  
ぶかぶかはきがぱっつんぱっつん。



## 白

栈橋に冷たい風が吹き抜けてねえ中で待っていようよ

どこまでも雪におおわれ汚れてるわたしは下に隠れていますね

雪虫を見たことがない雪虫と雪はどっちが冷たいのかな

冷たさ寒さを連想する歌を作ってみました。  
最近寒いのでイメージがわきやすいテーマでしたね。



ティ

冷たい空気温かい心

黒髪にひとひら落ちる初雪は空の清さをかすかにとどめ

歌うたう真っ白な雪思いつつ清らかなもの心に満ちて

雪だるま共に作ったあの冬に初めて恋のときめき知った

雪をテーマに、冬の冷えた空気を温かくする歌を詠ました。



新地学

## 勿忘草

鈍色の雲から落ちる涙雨かの日の君の忘れ形見の

傘持たず横断歩道わたる吾背けるようにうつむき駆けて

窓叩く雨に翻弄される吾夜行回遊魚に成り下がる

勿忘草の花言葉は、私を忘れないで。  
どれだけ月日が経っても忘れられない人や出来事はあると思っんです…。



# 酔転寓

寒月を觀じ爛酒舐め居れば太郎月夜の風が身に滲しむ

浮かれ越し凍みたコンクリ床の上行き着く果ての段ボールの暖

醒さめ冷さめの全靈しに染む曙光に深く息する飲み干するよに

てる

この時期マジでヤバいんですって(二首目)  
そして段ボールは神(笑)サスガに最近はやらかさんけど…



兄よあなたは

朝帰りするとき兄は女装しています真冬に溶ける口紅

階段を駆け上がる音おっさんで父さん母さん眠るしかねえ

玄関のハイヒールすこし履いてみる「うわっ」て言うたび出る白い息

ちやありい

いろんな意味で冷んやりしてほしいな。  
って思いました2017年冬号。楽しんでいただけたら幸いです。



# 泣かない十二歳

字を覚えないう妹を連れ挑む校門蟬の抜け殻を踏む

勉強ができるそうだね罪科を告げるがごとき担任の声

つみが

足が冷ゆるとしか言わない母の無力を知って泣かない十二歳

つみ

短歌ってどんどん難しくなる！  
脱才ノマトペと脱リフレインが当面の目標です。

著者近影

## 隙間風

解凍をできない心向かい合うことを恐れて横顔向ける

言葉では埋まらない川流れ橋見えているのに振り向かぬ人

塞いでも防ぎきれない隙間風左手で触れる頬の温もり

みちくさ

美しくなくていい。  
わたしの言葉で、小さなゆらぎを歌えますように。



## 三様

くちびるに氷った薔薇を咲かせたく  
リップグロスよ私に勇気を

さよならを見せない貴方のスー  
プさえ温めなおすことは無駄だと

街の灯が、色が、音が、煩くて。  
雪よ少し黙らせてくれ

ご無沙汰してます。久しぶりに詠いました。  
苦しんだけど、楽しかったです。

せんむ



s e t s u n a

冬型の気圧配置が強まって今年も逢える胸焦がすひと

氷点下あなたの唾で濡らされた粘膜だけが紅くかじかむ

一瞬の迷いがふたりを軽くする手と手つないで凍眠カプセル

「冷」は難しかったですがおかげで大嫌いな冬を  
少しだけ愉しく過ごせました。



レイ

# 冷たさの温度

心までとかされる日を焦がれては固い地面を押し上げる朝

投げやりに差し出された手の冷たさが語るあなたのほんとの温度

明日へと高く飛ぶため頬を切る向かい風から逃げたりしない

上昇気流を向かい風に探すように、  
冷たさはいっしょに温もりをなほらさそう。



seri

君

小さくてすぐに冷たくなる君の手専用です僕の左手

もぞもぞとくっついてくる君の脚ひとりじゃないと思う冬の夜

気がつくときひとり分の温もりが消えているんだ月が冷たい

七色一味

最初は別タイトルの予定が、できた数首を並べ替えたなら  
こうなりました。君って…？



## 冷戦状態

つま先をぎゅっと丸めて立ちすくむ今は私が防御のターン

マフラーに貯め込んでいた爆弾を吐息に乗せてオリオンへ撃つ

確執はDeafでできるはずなのに範囲指定を決めかねている

メモリア(もも)

物騒な歌を、詠んでみたかったです。



冷たい人の手はあたたかい

泣き叫ぶ子を抱きとめているのだろう ゆれるゆれるゆれる防風林

いとしいと思う気持ちに戻るため一時保育を乱発している

呪いだと思う母性は縋りつく小さな指をふりほどけない

れいぽ

コミュに参加した時生後6か月だった泣き虫ちゃんも悪魔の三歳児となりました…冷たい母ちゃんでごめんね。



## カウンター

年俸は一割減と告げいたる冷たきままの辞令一枚

酒に逃げ込むしか馬鹿はできなくてひたすら呷るダブルロックを

冷静にならざるわれを鎮めたし無伴奏チェロを微かに鳴らす

Sage (太田青磁)

牧水のように

「白玉の齒にしみとほる秋の夜の酒はしづかに飲むべからけり」といきたいですね。



## 日常

だんだんと濃くなっていく紅を窓辺ですっと眺めてる母

ぬくもりの中で目覚めてひきよせる頬にあてがう冷たいクッション

揺すってもとだえぬ寝息よこにおきテレビをつけて食べる夕食

温かなことより、冷たいことをうたうのは、  
はるかに難しいと思いました。



June

## 春寒

医師の目のひとつひとつが突き刺さり目覚めたことをやっと安堵す

首元に垂らされるジェルふくらみを癒すかのようにすべる探査機

点滴の針に負けたる右腕を鎮めるために置かれた故郷

雪（永山雪）

いつか歌にできたらいいなと思っていてたできごとを、  
納得のいくかたちにまとめることができました。



## 編集後記

2017年の冬は、日本全国近年にない厳しい冬となっているようです。そんな中、第10巻を迎えた冬号のお題は「冷」。「冷」をどの角度から詠うか、皆さん悩んだようです。詠み人それぞれが表現した温度、色や空気をぜひお楽しみください。

短歌に縁がない方にも、短歌ってちょっとおもしろいかも？と書いていただけただけなら、無上の喜びです。

企画・写真・編集 momonga (もも)  
ダイヤモンドダストの背景画像  
工房 木-楽々(ki-rara)さま  
短歌の背景素材 somephoto さま

夜な夜な短歌集第10巻2017年冬号／2017年2月発行／企画・編集 momonga (もも)

- 当歌集に掲載されている文章・画像等の無断転載はご遠慮下さい。使用する際は、事前に確認していただくようお願いします。歌集の紹介や読書メーターでのレビューは大歓迎です。
- 『夜な夜な短歌コミュ』とは、読書メーターにあるコミュニティです。短歌が好き、短歌を詠みたいというメンバーが集まって交流をしています。みなさんも良かったら一緒に短歌を作ってみませんか？ \*[夜な夜な短歌人による 夜な夜な短歌コミュをみる](#)